

インタープロフェッショナルワーク実践能力評価尺度（CICS29）

この尺度は多職種連携の実践能力を測定するためのものです。教育的介入の前後比較などの縦断的な調査または、対象者の基本属性が均質である場合に個人間の比較に用いることができますが、職種や年齢の異なる集団間の比較には用いることができません。また、使用の際には、項目番号と下位尺度名を削除し、項目順を無作為に並び替えて使用することを推奨します。

あなたが他の職種とどのように連携して働いているか、また、その認識についてお伺いします。それぞれの項目について、該当する番号に○をつけてください。

なお、ここでの「チーム」とは、患者の治療・ケアを目的とした複数の専門職で構成されるグループのことをさします。

下位尺度Ⅰ：プロフェッショナルとしての態度・信念		そうである	まあ そうである	どちらとも いえない	あまり そうでは ない	そうでは ない
1	常に実践を改善しようとしている	5	4	3	2	1
2	常に実践した治療・ケアの振り返りをしている	5	4	3	2	1
3	専門職としてあるべき姿を追求している	5	4	3	2	1
4	根拠に基づいた治療・ケアを実践している	5	4	3	2	1
5	実践している治療・ケアの根拠を誰に対しても説明できる	5	4	3	2	1
6	最新の専門知識を実践に活用することができる	5	4	3	2	1
下位尺度Ⅱ：チーム運営のスキル						
7	チームメンバーの仕事の範囲や限界を理解している	5	4	3	2	1
8	チームメンバーの忙しさや仕事のペースに配慮している	5	4	3	2	1
9	チームがうまく機能しないときに、チームメンバーと協力して解決を試みることができる	5	4	3	2	1
10	チームメンバー同士で対立が生じた時に自ら調整している	5	4	3	2	1
11	どのようなときにチームにトラブルが起こりやすいかを知っている	5	4	3	2	1
下位尺度Ⅲ：チームの目標達成のための行動						
12	チームの取り組みの成果を説明することができる	5	4	3	2	1
13	チームが掲げる目標を達成するために、自身の実践を調整することができる	5	4	3	2	1
14	チームの目標に照らして、自分とチームメンバーとの間で意見を調整することができる	5	4	3	2	1
15	チームメンバーの専門職としての力量に応じて、必要な支援ができる	5	4	3	2	1
16	チームがうまくいっているかを客観的に評価することができる	5	4	3	2	1

下位尺度Ⅳ：患者を尊重した治療・ケアの提供						
17	患者だけでなく、家族の意向も尊重している	5	4	3	2	1
18	患者の自立を念頭に置いて治療・ケアを行っている	5	4	3	2	1
19	患者が自己決定できるようにかかわることができる	5	4	3	2	1
20	患者の特性や状況に応じて、患者への関わり方を変えている	5	4	3	2	1
21	患者にとって最善の治療方法やケアを探究している	5	4	3	2	1
下位尺度Ⅴ：チームの凝集性を高める態度						
22	他の専門職とコミュニケーションをとる機会を意識的につ くっている	5	4	3	2	1
23	患者の治療・ケアのありかたについて、他の専門職と日常的 に話し合っている	5	4	3	2	1
24	ミーティングでは他の専門職が話しやすい雰囲気をつくり だそうとしている	5	4	3	2	1
25	日常的に職種間の良好な人間関係を作る努力をしている	5	4	3	2	1
下位尺度Ⅵ：専門職としての役割遂行						
26	専門的知識に基づいて他の専門職に意見を述べるこ とができる	5	4	3	2	1
27	チームから求められている自職種の役割を遂行でき る	5	4	3	2	1
28	自職種の専門的知識や技術を用いてできることの範 囲を理解している	5	4	3	2	1
29	たとえ他の専門職との間に摩擦が生じても、自職種の 専門性の観点から必要な意見を言っている	5	4	3	2	1

この尺度の利用をご希望の際は、下記までご連絡願います。

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究科 看護システム管理学分野 ケア施設看護システム管理学領域

酒井 郁子 (Chiba IP Studies 研究代表者)

E-Mail: ikusakai@faculty.chiba-u.jp